

人物の内面を描く
〜阪本寛文写真展〜

阪本寛文さん（御来屋11区）の写真展「夢追い人」が、6月8日から18日まで、名和公民館で開かれました。カメラ雑誌などに入選した女性の人物写真が展示され、訪れた方たちは、一枚一枚立ち止まり、ゆっくりと観賞していました。

阪本さんは「新婚旅行がきっかけでカメラに興味を持ち、その2年後に初応募したコンテストに入賞しました。最初はそれ

がうれしく、入賞するために勉強し、人物を中心に撮影していました。40代半ばごろ愛媛県の川を撮影し、美しさに心打たれ、それからは風景写真を中心に、皆さんに喜んでもらえるようにと思い撮影しています。次回は「遠い記憶」と題し、古き良き時代の風景写真を展示します。ぜひご覧ください」と話していました。



今回で11回目の写真展を開いた阪本さん

大野池湖畔で夕暮れ
コンサート



曲と共に移り変わる景色が舞台を演出しました

大野池湖畔で大山王国（NPO 大山中海観光推進機構）主催の夏至祭（夕暮れコンサート）が、6月16日（土）に行われました。

コンサートの幕開けは、長尾ゆうたろうさんのフラメンコギター。情熱的な調べが響きました。そして尾崎亜美さんと、ベーシストの小原礼さんの演奏がスタート。すると間もなく、大山北壁と対岸の山々が夕日に照らされ、朱色に染まり舞台を演出。日が落ちるとともに500個のろうそくが灯され、観客は会場の雰囲気とやさしく響く尾崎さんの歌声にすっかり魅了されました。

どろんこで田植え

光徳保育所園児が田植え体験



中腰で上手に苗を植える園児たち

コメ作りをとおして、食への興味を養おうと、5月29日（火）光徳保育所の3歳以上の園児31人が初めての田植え体験をしました。

保育所から歩いて15分ほどの東坪の田（大谷克己さん（東坪）所有）に、園児たちは祖父母や近所のボランティアの指導を受けながら、丁寧に苗を植えました。

田の広さは、約100㎡。1時間後には整然と苗が植え揃い、園児たちは「最初は難しかったけれど、うまくできた」「泥が暖かくて気持ちよかった」と話し、泥んこになった手足をお互いに見せ合って楽しんでいました。

田植えの指導をした園児の祖母（倉谷）は「泥の感覚を体験することはいいこと。上達が早くて驚きました」と感想を話していました。

10月にはカマで稲を刈り、割り箸を使って脱穀し、11月にはコメ作りの指導と手伝いをしていたいただいた方や、老人クラブの方を交えて、おにぎりパーティーをする予定です。